

発達障害をもつ子どもの行動の拡大を援助する働きかけ

—障害児通所施設での支援—

Approaches to Support the Expansion of Behavior in Children with Developmental Disabilities

—Support at Day Care Center for Children with Disabilities—

○太田光美^{*1,2}・中鹿直樹^{*1}

○Terumi OTA^{*1,2} Naoki NAKASHIKA^{*1}

立命館大学人間科学研究科^{*1}・医療法人長尾会 放課後等デイサービスもみじの家^{*2}

Graduate School of Human Science, Ritsumeikan University¹⁾・Medical Corporation NAGAO-KAI,

Momiji-no-Ie After-school Day Service for Children with Disabilities²⁾

Key words: 拒否の受容, 正の強化, 行動の拡大

目的

本研究の目的は、障害児通所施設における療育場面で、強いこだわりや不適応な行動を示す子どもたちに対して、支援者は子どもの希望を尊重し、抑制することなく、行動の拡大を促進することができるかを検討することにある。具体的な介入方法として、子どもが希望する遊びを取り入れながら、支援者は子どもの拒否する行動を受容することで、新たなできる行動が増加するかどうかを検討する。

方法

対象者 障害児通所施設を利用する5歳の女兒A。Aは小児科で注意欠如・多動症の疑いと診断される。療育開始時のアセスメントでは、重力の変化に対する姿勢制御の困難さと様々な感覚を回避する傾向が見られた。Aは初回の遊具に乗った経験から、作業療法士(occupational therapist:OT)が勧める揺れる遊具に乗ることを大きな声で強く拒否した。一方でOTは姿勢制御やバランス、感覚の過敏さの改善を目的に前庭刺激を伴う運動の実施を計画した。

場面 1回約40分間で、遊具を用いた運動プログラムを中心とした療育を実施する。子どもは最初に遊びたい3~4個の遊具の写真を選択し、メニュー表に遊びたい順に貼る。OTはそれらの遊具を用いて遊びを計画し、子どもに提案し、同意が得られた場合に実施した。

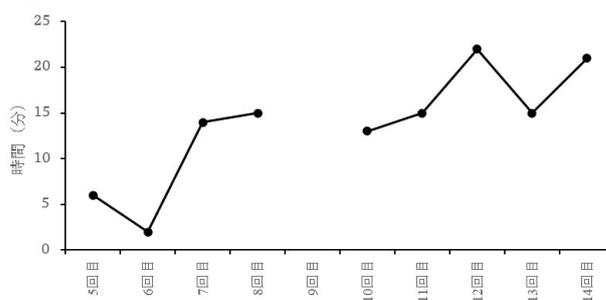
手続き Aに対して姿勢制御が必要で遊び方が多様にあるブランコに乗る遊びを標的行動として計画した。Aがブランコに乗ることを拒否したときにはその行動を受容し、Aが希望する遊びを実施する。OTはAが希望する遊びに併せてブランコ遊びを提案し、同意が得られた場合にのみ実施する。療育の様子はカメラで撮影し、映像と実施記録からAの行動を観察・測定した。

従属変数 当該施設の9種類のブランコに乗った合計時間とした。また、ブランコに乗る方法や遊び方についても測定する。

結果

初回から4回目の介入まで、OTはAが選んだ静的な遊具を用いながら、ブランコに乗る遊びをOTはAに提案したが、Aは大きな声で拒否した。5回目の介入では、OTはごっこ遊びを提案し、オーシャンスイング(ブランコの1種類)をその乗り物として設定することで、Aはオーシャンスイングに乗り、遊びの中で新たな遊び方にも取り組むことができた。8回目はOTの勧めで怪獣退治をするためにオーシャンスイングに乗ることができ、10回目には自発的にオーシャンスイングに乗ることを自ら希望した。オーシャンスイングに乗りながらマットを蹴る、ボールを投げる、座位や腹臥位、仰臥位、腹ばい、立位姿勢を自らとることができた。

Figure1 ブランコに乗った時間



※9回目はブランコに乗ったが、測定はできなかった。

考察

OTはAの拒否する言葉を受容しながら、ブランコに乗ることを援助した。ブランコに乗ることをごっこ遊びの一部に取り入れることによって自ら乗り、様々な乗り方へ広がり、長く乗ることができた。さらに、ブランコに乗ることに併せて物を倒せる、高く登れる、物語の主人公になれるといった新たなできる行動の増加や母親やOTからの言語的な称賛によって、活動を繰り返し、正の強化に基づく行動の拡大がみられた。

参考文献

佐久間 徹 (2013). 広汎性発達障害児への応用行動分析(フリーオペラント法), 二瓶社